

川と日本人の文化

(公財)リバーフロント研究所 代表理事 竹村公太郎



文化と共同体

文化とは何か、の答えはとても難しい。

「文化とは、ほのぼのとした懐かしいもの」という数学者の岡潔先生の言葉が心に残っている。文化の定義は難しいが、文化を感じることはできそうだ。文化は必ず共同体の中にある。だから、異なる共同体の文化は「異文化」となってしまう。どうやら、文化はそれを生み出す共同体に秘密がありそうだ。

共同体とは仲間の集団だ。仲間とは味方だ。極端な表現すると、共同体以外の人には「敵」なのだ。平和な21世紀の日本、敵と言ってもピンとこない。しかし、オリンピックやワールドカップのサッカーを見ていれば分かる。普段は敵などと思いきや、応援している私でもゲームが始まれば相手チームは敵になってしまう。

共同体にとって「敵」の存在は切っても切れない関係にあるようだ。

共同体と敵

世界史はユーラシア大陸を舞台に動いた。世界史は暴力による侵略の繰り返しであった。暴力は大陸を疾走し、侵略した土地の言語を圧殺し、神殿を打ち壊し、風習を踏みにじった。世界史に出てくるどの文明も他民族に侵略され、敵に囲まれた中で強固な共同体を形成していった。

その世界史の中で、一度も侵略されなかった文明がある。

ユーラシア大陸の極東の海に浮かぶ日本文明だ。大陸と日本列島の間の300kmの海峡が、日本を大陸の暴力から守ってくれた。

日本には異民族の敵はいなかった。では、異民族の敵がない日本に共同体はなかったのか？

日本には多くの共同体が存在していた。日本各地には多くの方言、風習がある。そのことが共同体の存在の証である。

では、それほど日本各地に共同体があったのなら、その共同体の敵は誰だったのか？

沖積平野の敵

細長い日本列島の中央には脊梁山脈が走り、その山々から太平洋と日本海に無数の川が流れ下り、その河口部には狭い沖積平野が形成されていた。

日本人はこの狭い沖積平野で稲作を開始した。この沖積平野は稲作にとって肥沃な土地であったが、水はけの悪い湿地帯であり、洪水に晒された危険な土地であった。

この沖積平野で稲作の水を引き込み、洪水から集落を守るためには、強固な共同体を必要とした。日本人の共同体意識は、洪水から自分たちを守る中で醸成されていった。つまり、敵は「洪水」であった。

日本各地の文化は、この洪水という敵と闘う共同体の中で生まれていった。

堤防と文化

共同体の人々は、洪水から土地を守るため堤防を築造した。その堤防を放置しておく、モグラが穴

を掘り、漏水が発生し、劣化していく。だから堤防は常に維持される必要があった。

武田信玄が笛吹川で信玄堤を造ったのは有名である。しかし、信玄の凄いところは、そこで終わらないところだ。信玄堤の横に三社神社を祀り、周辺の集落から神輿を集める三社祭を起こしたのだ。各地からワッショイワッショイと信玄堤の上を踏み固めながら三社神社に向かう祭りだ。この祭りは21世紀の今でも続いている。ハードな堤防をソフトな祭りで維持管理していくのだ。

この手法は江戸時代に徹底に模倣された。木曾川三川の治水神社、多摩川の左岸の穴森神社、酒匂川の福沢神社と数えたらきりが無い。全国各地で守り神は川の傍に祀られた。

山形県の花笠踊りに「でかした堤、水も漏らさぬ深い仲、ヨカマカシヨ」と歌詞がある。花笠踊りも踊りながら堤を踏み固めるお祭りなのだ。新潟の大凧揚げも堤防の上で行われ、九州の筑後川でも堤防の上を歩く祭りがある。

市民が守る堤防

江戸時代、幕府は隅田川の洪水から江戸を守るため、浅草寺の北側に日本堤を築造した。江戸幕府の仕掛けはそこで終わらなかった。今の日本橋三越本店あたりにあった遊郭の吉原を、浅草の日本堤に新吉原として移設したのだ。それまでは人通りがなかった日本堤を、遊郭へ向かう多くの人々が歩くようになった。これで日本堤はしっかり締固められることになった。

その後、日本堤の対岸に墨田堤が築造された。浅草周辺は江戸を洪水から守る要の土地となった。江戸幕府は墨田堤の向島に料亭街を集めた。江戸中の芝居小屋を浅草の猿若町に移転させた。これが後の浅草六区となっていく。墨田堤には桜を植え、お花見のメッカにした。夏には両国橋で花火を打ち上げた。

江戸中の市民が浅草に集まり、堤防の上を楽しく歩き、堤防を強化していった。

日本人は堤防の神社で祈り、堤防で祭りをして、堤防でお花見をして酒を飲み、民謡を歌い、芝居を見て、花火を見て、自分たちのメモリーを積み重ねていった。

近代文明の最先端の21世紀の日本で、神社や、祭りや、お花見や、民謡や、田舎芝居や、花火を見ると、なにかほのぼのとした懐かしい思いに包まれる。これが岡潔先生の言った文化なのだろう。



広重 よし原日本堤
(出典：国立国会図書館所蔵)